秋田県文化財調査報告書第239集

遺跡詳細分布調查報告書

1993 • 3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調查報告書

1993 • 3

秋田県教育委員会

本県には3,900箇所を超える周知の遺跡があり、さらに未発見の埋蔵文化財が数多くあると推測されます。これらの埋蔵文化財は本県の歴史を理解するうえで不可欠のものであり、県民文化の新たな向上発展の基礎をなすものであります。

また、高速道路を主体とする交通体系の整備が大規模に行われるようになり、豊かで快適な生活を築くための地域開発が進行しております。埋蔵文化財の保護と地域開発の調和を図ることは、今日の重要な課題となっており、そのための基礎となるのが遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は、平成4年度国庫補助事業として実施した、一般国道7号琴丘能代道路建設事業・奥羽山麓農免農道整備事業・県営ほ場整備事業などの分布調査と、東北横断自動車道遠野秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・曲田地区農免農道整備事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。これらの遺跡は、具体的に開発事業が計画されている区域内にあるため、埋蔵文化財保護の立場で早急に対処したいと考えております。

最後になりましたが、これらの調査に協力いただきました関係各機関に厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成5年3月30日

秋田県教育委員会 _{教育長} 橋 本 題 信

例 言

- 1 本書は、平成4年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡 範囲確認調査の報告書である。
- 2 本書に掲載の遺跡分布調査・範囲確認調査は、主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化 財センターの職員が担当した。報文は、各調査担当者が作成したものを、秋田県埋蔵文化財 センターが編集した。
- 3 遺跡分布調査のうち、県営公害防除特別土地改良事業に係る土取り事業は、調査の結果、 事業区内に遺跡が確認されなかったので、本報告から除外した。
- 4 遺跡範囲確認調査のうち、東北横断自動車道遠野秋田線建設事業に係る相野々遺跡、軽井 沢地区開拓地農道整備事業に係る戸呂淵遺跡は、調査の結果、調査区内で遺構などが確認さ れなかったので、本報告から除外した。
- 5 報告書に使用した地図は、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』(県南版・中央版・県北版)、建設省国土地理院発行の50,000分の1、25,000分の1地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県土木部が作成した1,000分の1の地図、秋田県農政部が作成した500分の1の地図である。

目 次

序			
例言			
目次			
第1章	は	じめに	1
第2章	平	成 4 年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項	1
第1節	j	遺跡分布調査	1
第2節	ĵ	遺跡範囲確認調査	2
第3章	調	査の記録	5
第1節	i	遺跡分布調査	5
	1	一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業	5
	2	奥羽山麓農免農道整備事業北部地区	6
	3	奥羽山麓農免農道整備事業南部地区	7
	4	広域農道整備事業男鹿中央地区	8
	5	県営ほ場整備事業水沢地区	9
	6	県営ほ場整備事業琴丘地区	10
	7	県営ほ場整備事業剰水地区	11
	8	開拓地整備事業三ツ森地区	12
第2節		遺跡範囲確認調査	13
	1	東北横断自動車道遠野秋田線建設事業	13
		小田Ⅳ遺跡·····	13
		上谷地遺跡	17
		虫内Ⅲ遺跡	18
		小田 Ⅴ 遺跡·····	20
		古野遺跡	26
	2	秋田外環状道路建設事業	30
		五百刈沢遺跡	30
	3	一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業	··34
		館の上遺跡	··34
	4	秋田昭和線地方道改良事業	42
		大松沢 I 遺跡·····	42
	5	曲田地区農免農道整備事業	46
		冷水山根遺跡	46
		寒沢Ⅱ遺跡	50
		寒沢遺跡・・・・・・	51
		中山遺跡	55

第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した平成4年度の遺跡詳細分布調査は、一般国道7号琴丘能代道路建設事業・奥羽山麓農免農道整備事業北部地区・奥羽山麓農免農道整備事業南部地区・広域農道整備事業男鹿中央地区・県営ほ場整備事業水沢地区・県営ほ場整備事業等丘地区・県営ほ場整備事業剰水地区・開拓地整備事業三ツ森地区の遺跡分布調査と、東北横断自動車道遠野秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・一般国道7号琴丘能代道路建設事業・秋田昭和線地方道改良事業・曲田地区農免農道整備事業・軽井沢地区開拓地農道整備事業に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査は、既に策定してある調査実施要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに男鹿市教育委員会、羽後町教育委員会の専門職員の協力を得て、平成4年4月から12月にかけて実施したものである。

第2章 平成4年度遺跡分布調查・遺跡範囲確認調查実施要項

第1節 遺跡分布調查

1 調査の目的

開発予定地内を踏査して、遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認すると共に、遺跡の性格についても把握する。
- (2) 確認された遺跡は地図に記入する。
- (3) 使用する地図は、25,000分の1もしくは50,000分の1の地形図と開発部局で作成した 図面とする。
- (4) 遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育庁文化課 学芸主事 熊谷 太郎 男鹿市教育委員会社会教育課 主任 泉 明 羽後町教育委員会文化振興係 係長 鈴木 俊男

5 調査対象地域及び事業名

No.	事 業 名	調査期間	調査結果等
1	一般国道7号琴丘能代道路 建設事業(八竜町、山本町)	平成4年7月14日、15日	路線に係わる周知の遺跡1箇所 と新発見の遺跡1箇所を確認。
2	奥羽山麓農免農道整備事業 北部地区(角館町)	平成4年7月3日	路線に係わる周知の遺跡1箇所 を確認。
3	奥羽山麓農免農道整備事業 南部地区(横手市)	平成4年6月5日	路線に係わる周知の遺跡 3 箇所 を確認。
4	広域農道整備事業 男鹿中央地区(男鹿市)	平成 4 年10月16日	路線に係わる新発見の遺跡1箇 所を確認。
5	県営ほ場整備事業 水沢地区 (峰浜村)	平成 4 年10月30日	事業区域内に周知の遺跡1箇所 を確認。
6	県営ほ場整備事業 琴丘地区 (琴丘町)	平成4年5月6日、 10月30日	事業区域内に新発見の遺跡1箇 所を確認。
7	県営ほ場整備事業 剰水地区(大雄村)	平成4年5月11日、27日、 11月13日	事業区域内に周知の遺跡1箇所 を確認。
8	開拓地整備事業 三ツ森地区(羽後町)	平成 4 年11月 4 日	路線に係わる周知の遺跡 2 箇所 を確認。
9	県営公害防除特別土地改良 事業に係わる土取り事業 (羽後町)	平成 4 年 5 月19日	事業区域内に遺跡は確認されな かった。

第2節 遺跡範囲確認調査

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2 調査の方法

- (1) 遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面 採集及び小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行う。
- (2) 調査の期間をおおむね $2 \sim 12$ 日間とし、その期間内にできるかぎり面的に発掘調査を 広げて遺構の確認に努める。
- (3) 現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行う。その際、 遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。
- (4) 使用する地形図は開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。
- (5) 遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県埋蔵文化財 学芸主事 大野憲司、榮一郎、利部修、小畑巌、谷地薫、

センター

磯村 亨、五十嵐一治

文化財主査 庄内昭男、桜田 隆

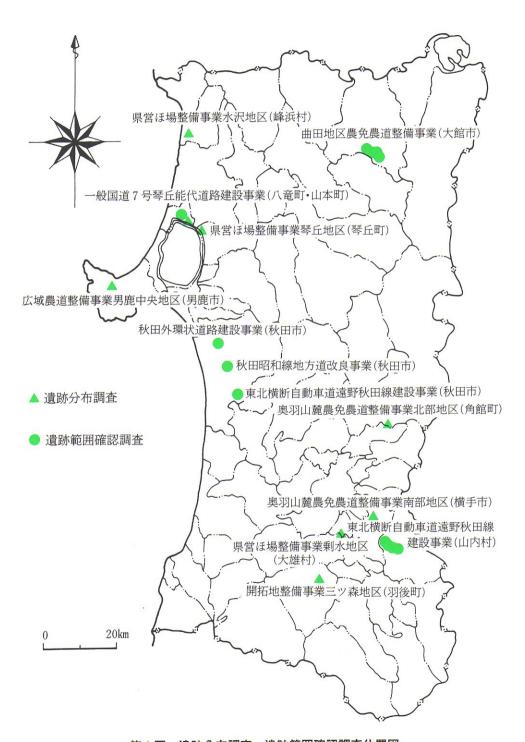
文化財主任 柴田陽一郎、高橋忠彦、小林 克

文化財主事 栗澤光男

非常勤職員 工藤 晃

5 事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No.	事 業 名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当者	摘 要
1	東北横断自動車道 遠野秋田線建設事業	小田Ⅳ遺跡(山内村)	平成 4 年 4 月 8 日 ~ 4 月14日	栗澤 光男工藤 晃	
		上谷地遺跡(山内村)	平成4年4月8日 ~4月21日	大野 憲司 利部 修	
		相野々遺跡(山内村)	平成4年4月14日	榮 一郎	調査区内は遺跡と 認定できず
		虫内Ⅲ遺跡(山内村)	平成4年4月15日 ~4月17日	榮 一郎工藤 晃	
		小田 V 遺跡(山内村)	平成4年10月16日 ~11月13日	高橋 忠彦 工藤 晃	
		古野遺跡(秋田市)	平成 4 年11月27日 ~12月 4 日	磯村 亨 庄内 昭男	
2	秋田外環状道路建設事業	五百刈沢遺跡 (秋田市)	平成 4 年10月12日 ~10月23日	磯村 亨 庄内 昭男	
3	一般国道7号琴丘能代 道路建設事業	館の上遺跡 (八竜町)	平成4年9月10日 ~10月9日	小畑 巌 小林 克	
4	秋田昭和線地方道改良 事業	大松沢 I 遺跡(秋田市)	平成 4 年10月26日 ~11月 2 日	磯村 亨 庄内 昭男	
5	曲田地区農免農道整備 事業	冷水山根遺跡(大館市)	平成 4 年 4 月13日 ~ 4 月15日	五十嵐一治 桜田 隆	
		寒沢Ⅱ遺跡(大館市)	平成 4 年 4 月15日 ~ 4 月16日	五十嵐一治 桜田 隆	
		寒沢遺跡(大館市)	平成4年4月16日 ~4月17日	五十嵐一治 桜田 隆	
		中山遺跡(大館市)	平成4年4月17日 ~4月18日	五十嵐一治 桜田 隆	
6	軽井沢地区開拓地農道 整備事業	戸呂淵遺跡(羽後町)	平成 4 年10月28日 ~11月 2 日	谷地 薫 柴田陽一郎	調査区内は遺跡と 認定できず



第1図 遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

第3章 調査の記録

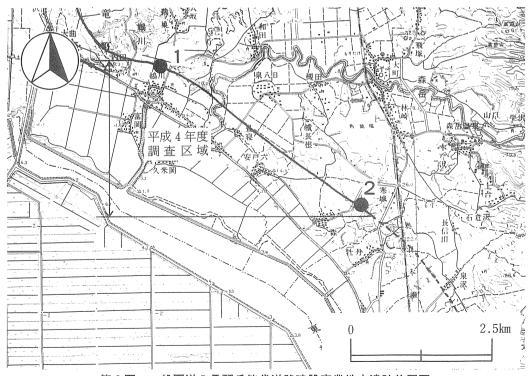
第1節 遺跡分布調査

1 一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業

琴丘町鹿渡から能代市浅内に至る延長17kmの計画路線である。このうち能代市から八竜町内田については、昭和60年以降に実施した分布調査により確認された11遺跡について現在発掘調査が継続中である。本年度はそれ以南の山本町にかけての5.3kmについて調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡及び新発見の遺跡それぞれ1箇所が確認されたほか、遺跡である可能性が強い地点3箇所がみとめられた。これらについては平成5年度改めて試掘により再調査を行うこととする。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	新笹岡遺跡	八竜町鵜川字新笹岡14外	縄文時代、中世	水田	新発見の遺跡
2	古館堤頭遺跡	山本町古館堤頭65外	平安時代	畑地	周知の遺跡



第2回 一般国道7号琴丘能代道路建設事業地内遺跡位置図

2 奥羽山麓農免農道整備事業北部地区

本路線は田沢湖町神代から横手市大沢に至る延長31.76kmの計画路線である。路線は工事計画 上3工区に分けられ平成3年度は南部地区の六郷、仙南地区について実施した。本年度は北部 地区の角館、中仙区域6.36km及び南部地区の横手市区域について調査を実施した。

北部地区については、調査の結果周知の遺跡1箇所が路線に係わることを確認した。

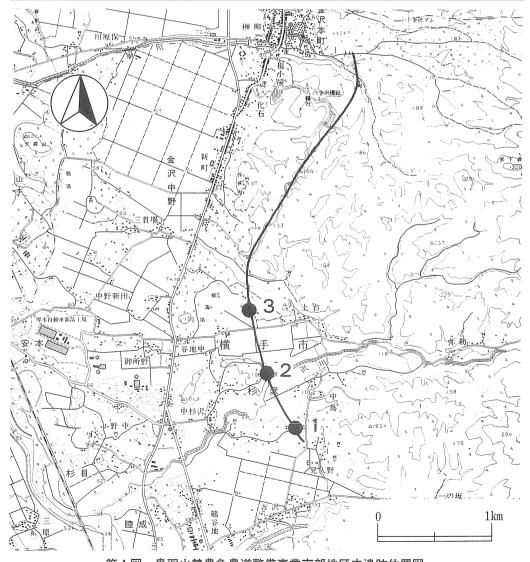
第3回 奥羽山麓農免農道整備事業北部地区内遺跡位置図

3 奥羽山麓農免農道整備事業南部地区

六郷町から横手市に至る延長13.7kmの計画路線で、平成3年度に引き続き本年度は横手市区域について調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡3箇所が路線に係わることを確認した。

N	0. 遺跡名	á 所	在 地	時	代 等	現	況	備	考
	はいのきわ 狼ノ沢C遺	遺跡 横手市杉沢雪	字狼ノ沢34外	縄文明	寺代	水田		周知の	遺跡
4	マーロップ ロップ ロップ ロップ ロップ A 遺	遺跡 横手市杉沢生	字中杉沢106タ	外 縄文時	 持代	山林、	畑地	周知の	遺跡
	上台A遺	跡 横手市杉沢	字中谷地3015		平安時代 可能性あり		畑地	周知の	遺跡



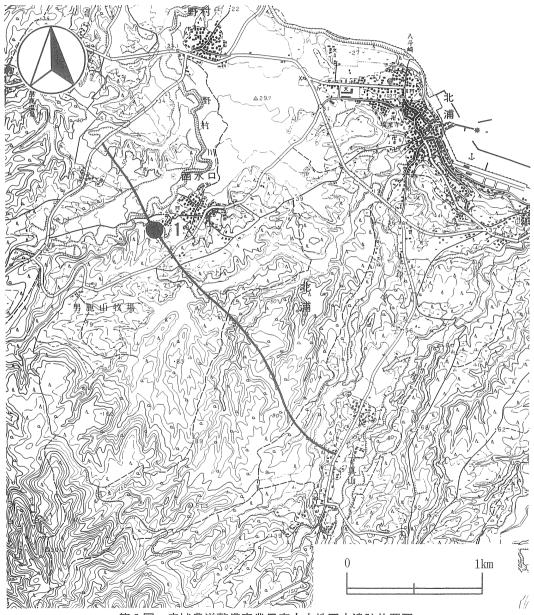
第4図 奥羽山麓農免農道整備事業南部地区内遺跡位置図

4 広域農道整備事業男鹿中央地区

男鹿市北浦地区から船川地区に至る延長8.3kmの計画路線で、本年度は北浦地区2.3kmについて調査を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所が路線に係わることを確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	^{そり さか} 遺 跡	男鹿市北浦西水口字橇坂8外	縄文時代	山林、畑地	新発見の遺跡



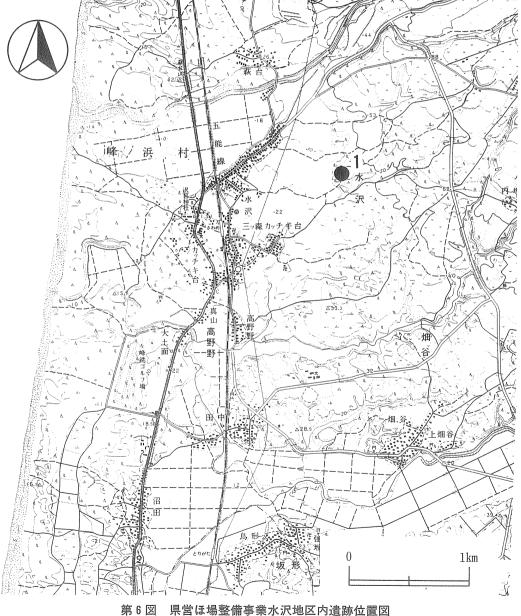
第5回 広域農道整備事業男鹿中央地区内遺跡位置図

5 県営ほ場整備事業水沢地区

山本郡峰浜村水沢地区における事業で、計画面積は109.1ha。本年度はこのうち当面の事業対 象区域について調査を行った。

調査の結果、周知の遺跡1箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	中台遺跡	峰浜村水沢字湯ノ沢岱251外	平安時代	雑木林	周知の遺跡

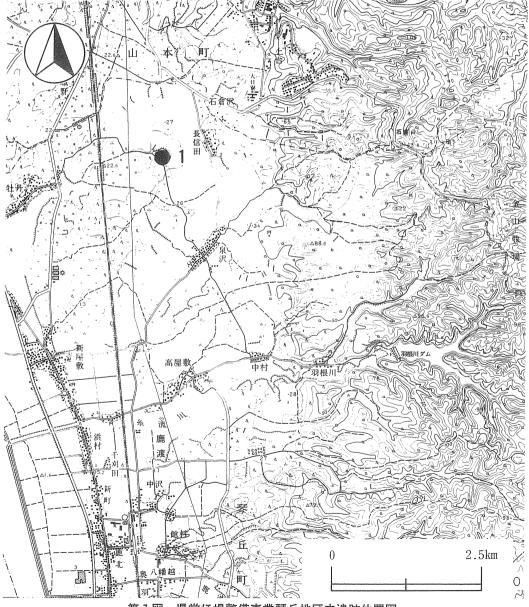


6 県営ほ場整備事業琴丘地区

山本郡琴丘地区における事業で、計画面積は263ha。本年度はこのうち当面の事業対象区域について調査を行った。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	家ノ下遺跡	琴丘町長信田字家ノ下1-11外	縄文時代	畑地	新発見の遺跡

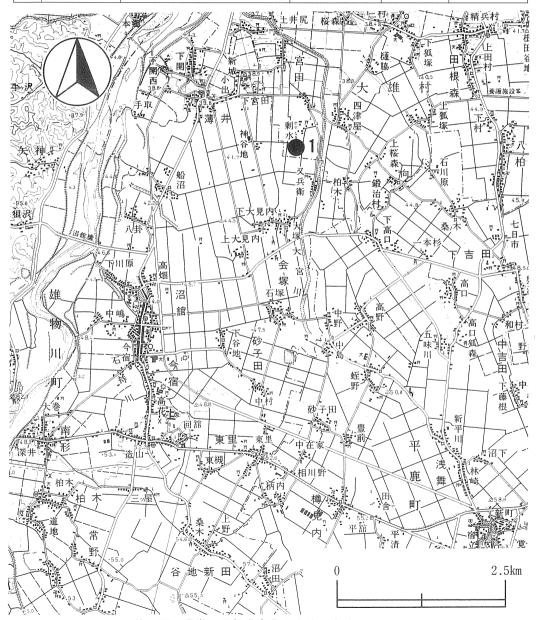


第7図 県営ほ場整備事業琴丘地区内遺跡位置図

7 県営ほ場整備事業剰水地区

平鹿郡大雄村地区における事業で、計画面積は36ha。調査は試掘により全面積について実施。 調査の結果、周知の遺跡1箇所が事業に係わることを確認した。

N	Ю.	遺跡名	所 在 地	 時	代 等	現	況	備	考
	1	***	大雄村字剰水178外	縄文、	平安時代	水田		周知の	遺跡



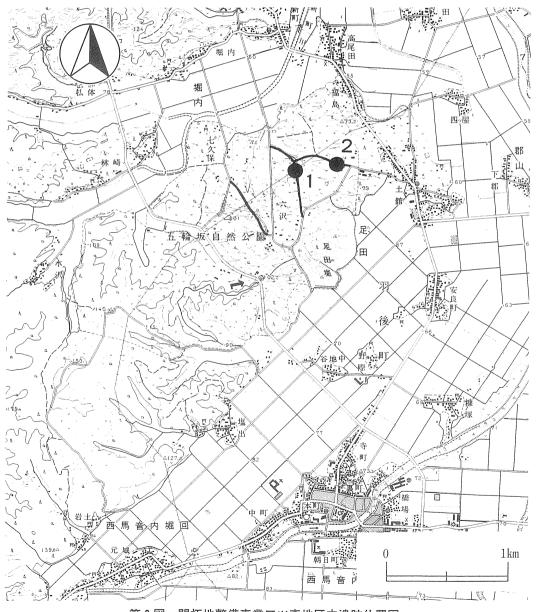
第8図 県営ほ場整備事業剰水地区内遺跡位置図

8 開拓地整備事業三ツ森地区

開拓地整備事業に伴う農道拡幅整備事業で総延長は1.758km。

調査の結果、周知の遺跡2箇所が路線に係わることを確認した。

	No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
	1	七窪遺跡	羽後町足田字七窪9外	平安時代	畑地	周知の遺跡
ĺ	2	足田遺跡	羽後町足田字雲雀野8外	平安時代	畑地	周知の遺跡



第9図 開拓地整備事業三ツ森地区内遺跡位置図

第2節 遺跡範囲確認調查

1 東北横断自動車道遠野秋田線建設事業

こだりのおりますが

1. 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村土渕字小田110-2外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年 4 月 8 日 ~ 4 月 14日

3. 範囲確認調査対象面積 7,300 m²
4. 工事区域内遺跡面積 6,000 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

小田IV遺跡は、JR北上線相野々駅から直線距離で西方約800mに位置し、奥羽山脈に水源を発して西流する横手川の左岸の台地上に立地している。この台地の南側は大きな沢で、東側は急峻な斜面、北側と西側は沢を埋め立てて作られた農道となっている。遺跡の地形は、南西部が小高い丘、北東部が尾根で、南西と北東部の間が平場となっており、起伏のある地形を呈している。標高は125~130mほどである。

なお、本遺跡の北側には農道を挾んで小田 V 遺跡が、東側の急斜面下には虫内Ⅱ遺跡、さらにその南東側には虫内 I 遺跡が所在する。

②現況

遺跡の現況は山林で、伐採済みである。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の層序は、部分的に異なる箇所が見られるが、調査区のほぼ中央部に東西に入れたトレンチの土層観察では、大きく以下の通りに分けられる。第 I 層は暗褐色土(層厚14~55cm)で、部分的に黒褐色土を主とする表土層である。第 II 層は黒色土(層厚 5~30cm)で、調査区北東部と南西部の間の平場部分で観察される。第 III 層は褐色土(層厚 8~16cm)で、地山漸移層である。第 IV 層はシルト質の明褐色土の地山で、中央付近から東側に行くにしたがって、小礫を多く含む。

なお、遺構は第Ⅱ層中および第Ⅲ層上面で確認され、遺物(縄文土器片、石器、フレークなど)は主に第Ⅰ・Ⅱ層中から出土する。

②検出遺構と遺物

第2節 遺跡範囲確認調査

調査は、範囲確認調査対象地に、幅1 mで地形に合わせた長さのトレンチを5本入れて行った。その結果、遺構は、土坑2基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基、配石遺構3基、幅35cmほどの溝状の落ち込み1基、性格不明の落ち込み7基などが検出された。このうち、焼土遺構は竪穴住居跡に関連する施設と考えられる。また、これらの遺構は、周囲の出土遺物から縄文時代のものと考えられる。

遺物は、縄文時代早期~後期に位置付けられると思われる土器片、石器、フレークなどと、 旧石器時代のものである可能性のある石器 1 点と縦長剝片 1 点が出土した。

7. 所見

①遺跡の種類

本遺跡は、検出された遺構・遺物から縄文時代の集落跡もしくは墓域と考えられるが、その詳細な時期は現段階では不明である。また、旧石器時代のものと思われる石器が出土しており、旧石器時代の遺物散布地である可能性を持つ複合遺跡とも考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

遺跡は、南側が大きな沢、東側が急な斜面、北側と西側が農道によって画されている台地全体に及ぶものと考えられる。工事区域は、遺跡の北西部から南東部にかけての地域で、遺跡全体のほぼ半分以上を占めるものと考えられる。

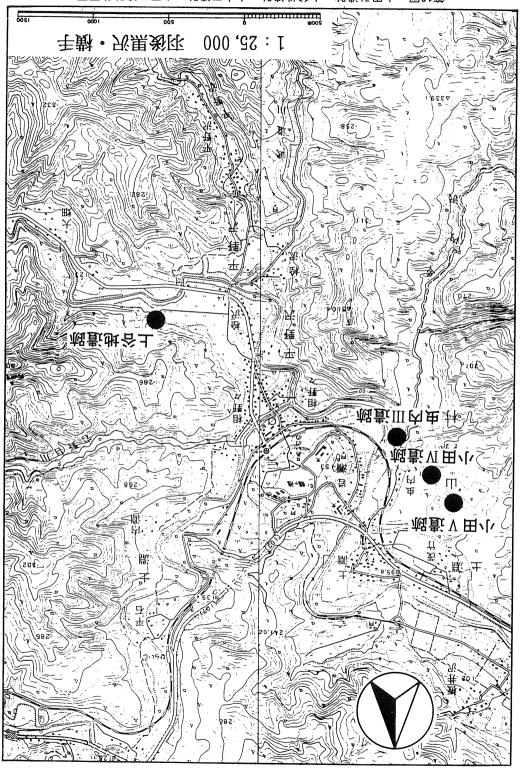
なお、調査区北東部と北部の斜面のうち急斜面となっている部分では、遺構、遺物とも検出されなかった。また、この地区のトレンチから少し離れた場所も地形、遺構、遺物の存在は考え難い。そのため、遺跡範囲から除外する。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

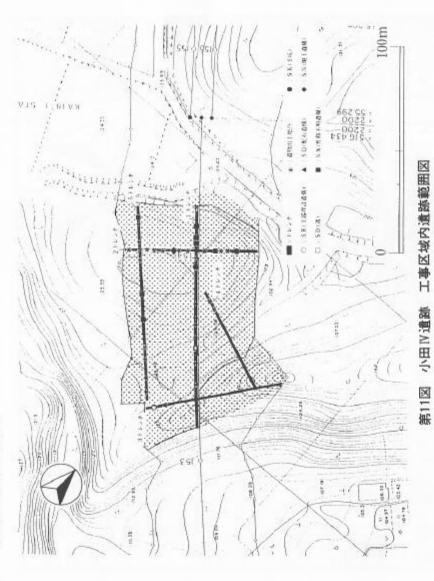
予想される遺構は、縄文時代の土坑、土器埋設遺構、竪穴住居跡などで、遺物は縄文時代の 土器、石器が主に出土するものと考えられ、これに旧石器時代の石器も出土する可能性もある。

8. 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は、平成4年5月18日~11月20日まで発掘調査を実施した。



図置 並越重 ₹ 田小 ,越重 Ⅲ 内 电 ,越重 此 谷 土 ,越 置 Ⅵ 田小 図 0 1 葉



小田Ⅳ道路 近景 (北一)

うわゃ ち **上谷地遺跡**

1. 遺跡所在地

秋田県平鹿郡山内村平野沢字上谷地117外

2. 範囲確認調査期間

平成4年4月8日~4月21日

3. 節囲確認対象面積

10.320 m²

4. 工事区域内遺跡面積

 $8,500\,\mathrm{m}^2$

5. 遺跡の立地と現況

①立地

上谷地遺跡は、JR北上線相野々駅の南東1.1kmに位置し、横手川右岸台地上に立地している。 奥羽脊梁山脈の甲山一帯(標高700~1,300m)に源を発する横手川は、村内では標高300~700mの山地を縫うように西流し、狭隘な流路に幾つかの小規模な河岸段丘面を形成している。

上谷地遺跡は、山内村の中心部相野々地区東方に座する天竺森(標高367.9m)の南西裾部に 形成された台地上とその南西側に続く斜面に立地している。この台地は、天竺森の南~西側の 丘陵裾部が比較的急な斜面となっているのに対し、この部分だけ緩斜面となっており、緩斜面 の平面形は北から南に小さく広がる扇形となっている。その規模は南北130m、基部幅20m、先 端部幅80mの範囲で、標高は基部で約162m、先端部で約146mである。また、この台地の東西 は深い沢、南側は急な崖面となっており、わずかに南西側が、沖積面に漸移的に移行する斜面 となっている。

②現況

台地部と斜面部は、コナラ、クリ、ヤマザクラ等を主とする灌木とその下に笹竹の繁茂する 山林で、台地南西側斜面下方は斜面に造成された水田である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

遺跡内の基本層序は、台地部(南西側斜面を含む)と、水田部でその様相が異なる。台地部では、第 I 層黒褐色表土層(5~30cm)、第 II 層赤黒色~黒色土層(0~15cm)、第 III 層黒褐色土層(5~30cm)、第 IV 層褐色土と黒褐色土の混土で地山漸移層(5~10cm)、第 V 層褐色地山土を基本とし、第 III 層が縄文時代の主たる遺物包含層となっている。また、遺構確認は第 III 層中でできるものもあるが、確実には第 V 層上面である。水田部では、第 I 層暗褐色耕作土(15~20cm)、第 II 層黒褐色土と褐色地山土との混じった攪乱土層(20~100cm)、第 III 層暗褐色土層(30~45cm)、第 IV 層黄褐色土層(20~25cm)、第 V 層黒褐色土層(20~25cm)、第 V 層 II 層が水田造成の際に盛られた土層であり、水田部南西側下方では、 II~ V 層が削平されている部分もある。

第2節 遺跡範囲確認調査

②検出遺構と遺物

台地部とその南西側斜面から竪穴住居跡3軒、土坑6基、性格不明遺構2基を検出したが、水田部からは遺構が検出されなかった。竪穴住居跡は小型のものと考えられ、外径55~70cmと推定される石囲炉を伴うものもある。これらは、土坑と共に周囲から出土している土器片から縄文時代中期終末~後期初頭のものと推定される。

遺物は縄文土器片と磨製石斧、剝片を主体とし、台地部と斜面部及び水田部共に多くはない。台地部では、遺構の周囲と斜面部にややまとまっているものの、水田部では点在している。

7. 所見

①遺跡の種類

台地部とその斜面は、縄文時代中期終末~後期初頭の集落跡で、水田部はその遺物散布地と 推定される。

②遺跡の範囲と工事区域

推定される遺跡の範囲は、この台地部と南西斜面と考えられる。今回の発掘調査区はこのうちの台地部南側部分と、台地南西側に続く斜面の一部である。なお、斜面部の調査対象区については、台地西側に沢化した部分があり、後世の水田造成のための攪乱が著しいことなどからその部分は遺跡範囲から除外した。

③発掘時に予想される遺構・遺物

台地部からは、縄文時代中期終末~後期初頭の竪穴住居跡や土坑、焼土遺構などが比較的多く検出され、水田部からは複数の土坑などが検出されるものと考えられる。遺物は縄文時代の土器・石器が遺構数に比べて少ない傾向で出土するものと思われる。

8. 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は、平成4年4月27日~11月20日まで発掘調査を実施した。

むしない 虫内III遺跡

1. 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村土渕字虫内99外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年 4 月15日~ 4 月17日

3. **範囲確認調査対象面**積 825 m²

4. 工事区域内遺跡面積 600 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

遺跡はJR北上線相野々駅の西方約600mに位置し、横手川左岸の河岸段丘上に立地する。調

査対象地はほぼ北流する横手川とこれに南西側から合流する虫内沢とに画され、北向きの舌状台地となっている。台地上面の標高は106m前後である。虫内沢を挾んだ北西側には虫内 I 遺跡が、横手川を挾んだ南東側には岩瀬遺跡が所在する。

②現況

現況は山林である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

舌状台地中央部では大きくは I 層:暗褐色土、II 層:黒褐色土、III 層:褐色土に分かれる。 I 層は表土層、III 層はいわゆる地山漸移層である。層厚は I 層が20cm前後、II 層が20~5cm前後、III 層が10cm前後を測る。各層は北側に下がるに従って薄くなり、II 層は台地北端では認められない。 遺構は II 層中で土器埋設遺構が確認される他は、III 層上面で確認される。また、遺物は主に I・II 層中から出土する。

②検出遺構と遺物

遺構は、土器埋設遺構 3 基、土坑10基、焼土遺構 2 基、柱穴17基を検出した。このうち、土坑および焼土遺構各 1 基は竪穴住居跡の可能性が考えられる。遺構の分布はほぼ台地全面におよぶとみられる。また、これらの遺構は、周辺の検出遺物から縄文時代に属するものと推定される。

遺物には少量の縄文土器片と比較的まとまった量の石器とがある。前者は胎土・焼成等の特徴から縄文時代中期~晩期に属するとみられる。後者には石箆・スクレイパー各3点の他、多量の剝片が存在する。

7. 所見

①遺跡の種類

縄文時代の墓域である。土器埋設遺構と土坑の一部は虫内沢を挾んだ北西隣の虫内 I 遺跡と 共通するものとみられ、本遺跡は虫内 I 遺跡を中心とする縄文時代後期末~晩期前半の大規模 な墓域の一部を構成するものと予想される。また、上述したように竪穴住居跡が存在する可能 性も認められることから、縄文時代の一時期には居住域であった可能性も想定される。

②遺跡の範囲と工事区域

本遺跡はその地形から、横手川と虫内沢とに挾まれた低位の段丘面のほぼ全面に広がる可能性が推定される。このうち、東北横断自動車道建設事業に係る工事区域は遺跡の北端に当たる区域と考えられる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

土坑および柱穴は、調査区のほぼ全面にわたって分布する可能性がある。また、土器埋設遺

第2節 遺跡範囲確認調查

構は幾つかの地点ごとにまとまって分布する可能性が考えられる。竪穴住居跡は地形から考えて、存在するとしても数軒程度に留まると推定される。

出土遺物は今回の調査結果から、石器が主体を占めるものと想定される。

8. 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は平成 4 年 6 月 1 日~ 7 月 3 日までと平成 4 年 9 月 8 日~11月 20日までの前後 2 期にわたって発掘調査を実施した。

で だ **小田 V 遺跡**

1. 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村土渕字小田111-28外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年10月16日~11月13日

3. 範囲確認調査対象面積 20,000 m²

4. 工事区域内遺跡面積 19,800 m²

5. 遺跡の立地と現況

① 立地

遺跡のある山内村は東部で岩手県と境を接する、奥羽山脈西麓の散村である。村内には、県境を源流とする横手川が大小の河川を集めて村の東西を横断し、西北の横手市に流れ込んでいる。遺跡は横手川左岸の茂竹集落の南側、JR北上線相野々駅から西北西に1.2kmの段丘面に位置している。遺跡のある段丘面は、標高130mほどの低位の段丘面と、標高138mほどの高位の段丘面の2面があり、両者は北側の茂竹集落に向かって緩い起伏を繰り返す段丘面である。

低位の段丘面は、西側が急崖となって茂竹沢に落ち込み、北と南側は茂竹沢に流れ込む小沢に囲まれた南北に細長い舌状の台地となっている。この段丘面から東側に連なる高位の段丘面は、本来南側を取り囲む緩い沢(現在は水田)によって画された東西に長い台地である。

②現況

低位の段丘面は杉を伐採した跡地で、杉の枝葉が散乱し、クリ、ナラ、モミジなどの灌木の 繁茂する原野である。

高位の段丘面の平坦部はブドウ園と畑の跡地で、現在はカヤの自生する原野となっており、 その他斜面は低位の段丘面と同様伐採後の杉の切り株が残る原野である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

低位の段丘面平坦部の層序は、I 層暗褐色土 (7.5YR3/4・厚さ20cm) の表土、II 層褐色土 (7.5YR4/4・厚さ10cm) の遺物包含層、III 層明褐色土 (7.5YR5/8・厚さ20~30cm) の包含層

及び遺構検出面、IV層明褐色土(7.5YR5/6)の地山である。平坦部南側では、III・IV層が薄くなり、IV層地山には白色で軟質の円礫(径5cm以下)が混じってくる。南側斜面の層序は表土30cmで以下は黄橙色(7.5YR6/8)砂礫土の地山である。

高位の段丘面の層序は旧畑地部分では、表土(耕作土)が30~50cmと厚く、その下は明褐色土(7.5YR5/8)の地山で、遺構の確認面である。この畑部分の南側の斜面は傾斜の基点では、I層表土、II層暗褐色土(7.5YR3/4・層厚20~30cm)の遺物包含層及び遺構検出面、III層は明褐色土(7.5YR5/6)の地山である。東側斜面では、I層表土の下は人頭大の円礫を含む明褐色土(7.5YR5/6)の地山であるが、この層の上面で遺構が検出される。

②検出遺構と遺物

低位の段丘面の平坦部では、竪穴住居跡や土坑が検出され、遺物は縄文時代早期末葉~前期の尖底土器・深鉢形土器、石匙・石箆・石槍など多くの土器、石器が出土している。

高位の段丘面の中央部南側斜面では、縄文時代後期後半~晩期前半の土器が出土し、竪穴住居跡も検出されている。また東側斜面では、直径3~4mの竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構などが検出され、遺物は縄文時代前期~中期の土器、石器が出土している。

7. 所見

①遺跡の種類

遺跡は、低位の段丘面には縄文時代早期末葉〜縄文時代前期の集落跡が、高位の段丘面には、 縄文時代後期〜晩期、東側斜面には縄文時代前期〜中期の集落跡が存在するものと考えられる。 ②遺跡の範囲と工事区域

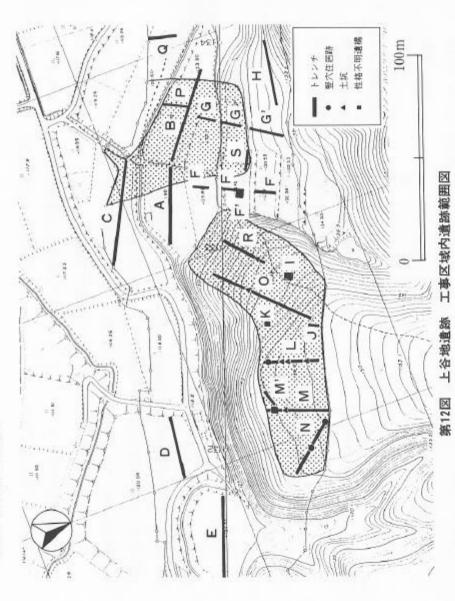
遺跡の範囲は、低位の段丘面においては南北に伸びる舌状台地に広がり、高位の段丘面では、 北東側に緩く傾斜する広汎な台地全域に及ぶものと考えられる。工事区域は中央から南端部分 を東西に走る。

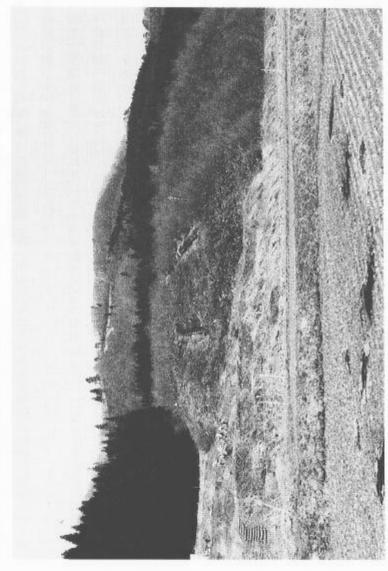
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

発掘調査では、既述のとおり縄文時代早期末葉〜晩期前半の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構などが検出され、遺物では縄文時代前期の石器を中心に、早期末〜晩期前半までの土器・石器が出土するものと予想される。

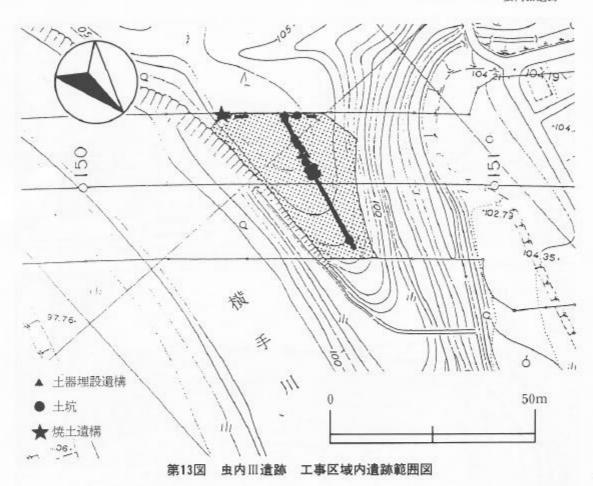
8. 参考事項

小田 V 遺跡は、横断道の分布調査の際に小田 I・小田 III・小田 III とした 3 遺跡を 1 遺跡にまとめたものである。なお、秋田県遺跡地図(秋田県教育委員会、昭和62年)によれば上記の名称を有する 3 遺跡が、地点を別にして登録されている。





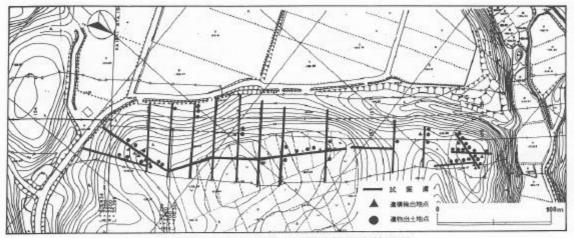
上谷地遺跡 近景 (南→)



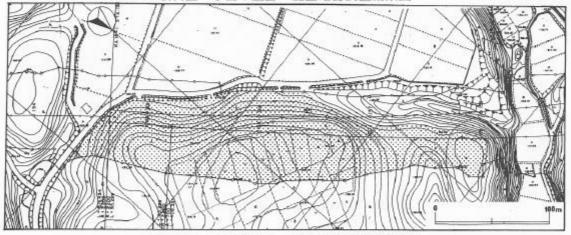


虫内Ⅲ遺跡 調査風景 (南→)

第2節 遺跡範囲確認調査



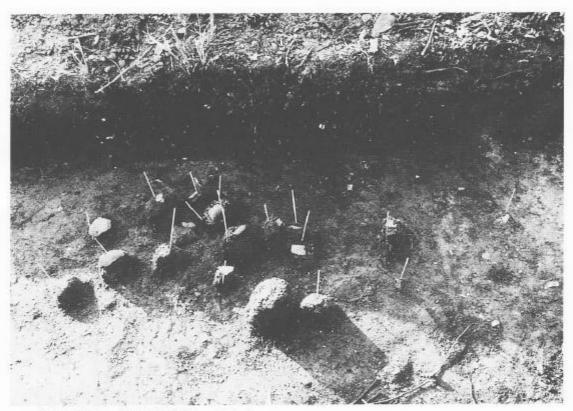
第14図 小田 V 遺跡 範囲確認調査結果図



第15図 小田 V 遺跡 工事区域内遺跡範囲図



小田 Ⅴ遺跡 近景 (南西→)



小田 Ⅴ 遺跡 遺物出土状況 (東→)



小田 Ⅴ遺跡 竪穴住居跡検出状況 (西→)

第2節 遺跡範囲確認調査

この古野遺跡

1. 遺跡所在地 秋田県秋田市上北手古野字向老方16外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年11月27日~12月 4 日

3. 範囲確認調査対象面積 3.300 m²

4. 工事区域内遺跡面積 700 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

調査対象地は、秋田市上北手古野地区にある。秋田市方面から国道13号線を通り、御所野台地を抜けると、左手に「古野方面」という標識が見える。標識にしたがって谷あいの道を5分程進み、市営バス停留所「後古野」の向かい、住宅地の裏手が調査対象地である。

古野地区は、和田丘陵の西縁にあたり、谷が幾筋も入り込み複雑な地形を呈している。調査対象地は、東から西に長く伸びる丘陵先端部にあるが、東に丘陵地を区切る浅い谷が入り、小山状に独立している。頂上部で標高約20m、水田面との比高差は約7mである。

②現況

西端に宅地があり、北面する斜面が畑地、隣接して杉林がある。頂上部は原野である。なお、 丘陵の中央に宅地の横から墓地まで通じる小道がある。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

遺跡範囲内の層序は次のとおりである。

第 I 層表土 (耕作土)、暗褐色〜褐色土層 (層厚10〜30cm)。第 II 層暗褐色土層 (層厚30〜40 cm)。第 III 層暗褐色〜黒褐色土層 (層厚40cm〜)。第 IV 層黄褐色土 (基盤層)。遺物包含層は、第 II・III 層である。

②検出遺構と遺物

遺構・遺物は、調査区内を東西に横切る小道より北側の斜面中腹およびその下で検出された。No.6トレンチで焼土遺構と小ピット群、No.7トレンチで焼土粒子が散在する範囲と住居跡と思われる立ち上がりである。No.7トレンチ内で確認された焼土散在部分には、白色粘土粒子が混在していることから、住居跡に伴うカマドが崩壊した可能性が高い。遺物は、遺構付近と北側沢への落ち込み部分で確認され、平安時代の土師器が出土した。遺物の総量は、コンテナ1箱分である。

7. 所見

①遺跡の種類

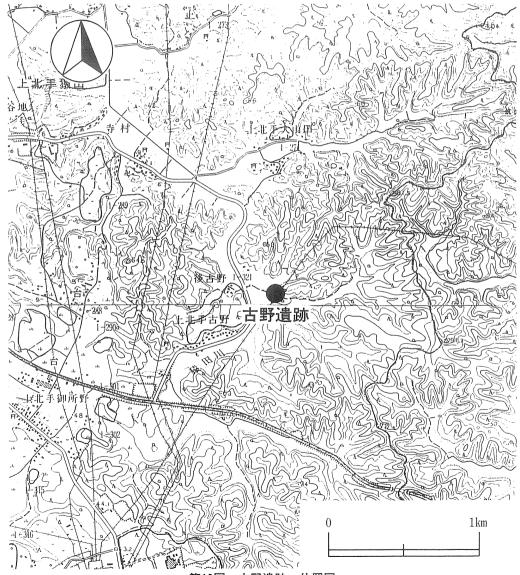
古代の住居跡の存在が予想される。

②遺跡の範囲と工事区域

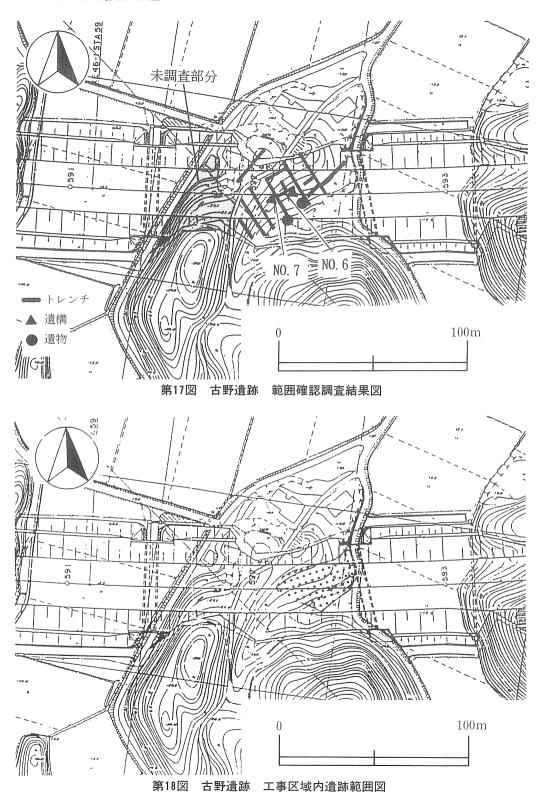
遺跡の範囲は、遺構・遺物の検出状況から、路線中心杭No.592+20付近の平坦面から北側の沢への落ち込み部分までと考えられる。斜面中腹から台地の南側斜面は、斜度がきつく、縁辺部でも遺構・遺物が確認されなかったこと、上面の平坦部でも遺物の散布が認められなかったことから、遺跡範囲から除外した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

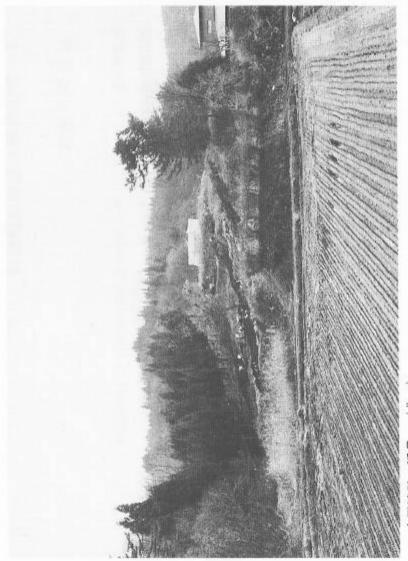
住居跡は、台地裾の狭小な平坦部に1~2軒の小さな単位で営まれているものと想定される。



第16図 古野遺跡 位置図



- 28 -



古野遺跡 近景 (北→



古野遺跡 焼土跡・小ピット検出状況 (西一

2 秋田外環状道路建設事業

_{ごひゃっかりざわ} **五百 刈沢遺跡**

1. 遺跡所在地 秋田県秋田市上新城道川字五百刈沢156外

2. 範囲確認調査期間 平成4年10月12日~10月23日

3. 範囲確認調査対象面積 12,000 m²

4. 工事区域内遺跡面積 2,600 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

調査対象地は、JR奥羽本線土崎駅の北東4.3kmに位置する。西に向かって鋸歯状に張り出した丘陵地の山裾および沢の上部にあたり、沢は南西に向かって開けている。山裾で標高18m、沢下で標高10mを測る。

②現況

沢上位には5軒の家が建っていたが、500m程離れた片野地区に移転している。沢の下位には 水田が開けている。沢の上位もかつて水田として利用されていたが、土盛りして宅地としたも のである。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

遺物が集中して出土したNo.8 杭付近の層序は次のとおりである。

第 I 層 砂層 (層厚5~10cm) 盛土部分。

第II層 黒褐色土 (層厚10~20cm)

第Ⅲ層 暗緑灰色粘土混じりの黒褐色土(層厚10~25cm)炭化物粒子が混入しており、特に 遺物集中出土地点で割合が高い。

第Ⅳ層 暗緑灰色粘土 (層厚10~20cm) 古代における生活面と考えている。

沢の下位は、かつて湿地帯であったと思われ、黒褐色土が80cm以上あり、その下に暗緑灰色 粘土が出てくる。

②検出遺構と遺物

粘土層上面を精査したが、遺構は確認できなかった。

遺物は、路線中心杭No.4、No.6、No.8、No.9および丘陵中腹のトレンチなどで広く出土しているが、とくにNo.8 杭周辺に集中している。大部分は古代の土師器、須恵器であるが、北東側では時期不明の縄文土器1片が出土している。古代の土師器、須恵器の年代は10~11 C 頃と推

定される。これら遺物の総量は、コンテナにして1箱分である。

7. 所見

①遺跡の種類

本遺跡は、古代の遺物散布地と考えられる。

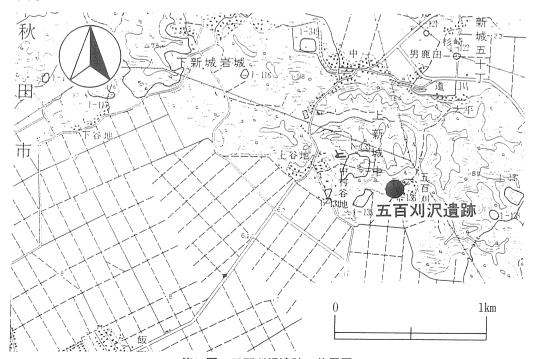
②遺跡の範囲と工事区域

調査は、路線中心杭No.-1からNo.10までと取り付け道路部分について、それぞれの路線中心杭および幅杭を基準にして、幅1mのトレンチを入れて行った。このうち、本線部分のNo.-1~1の丘陵の尾根部分については木材切り出しのための道路付設によって、No.2~3の平坦部については宅地造成によって、それぞれ大きく削平されたことを確認した。なお、丘陵中腹部分より縄文土器、土師器が数点出土しているが、極めて少量であり、調査区外からの流れ込みと考えられる。

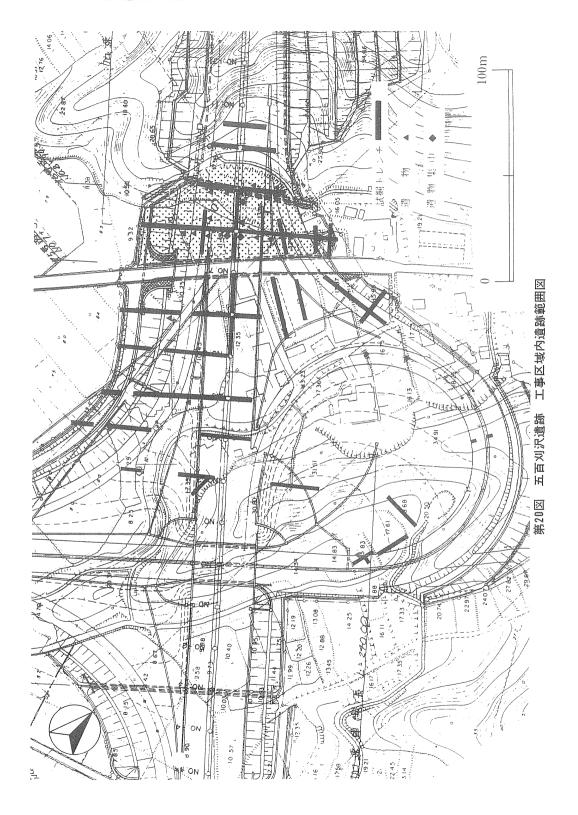
したがって、遺物の集中度から考慮して遺跡範囲は、丘陵地の山裾を横切る水路と市道に挟まれた部分で、工事区域内に包括されるものと考えられる。

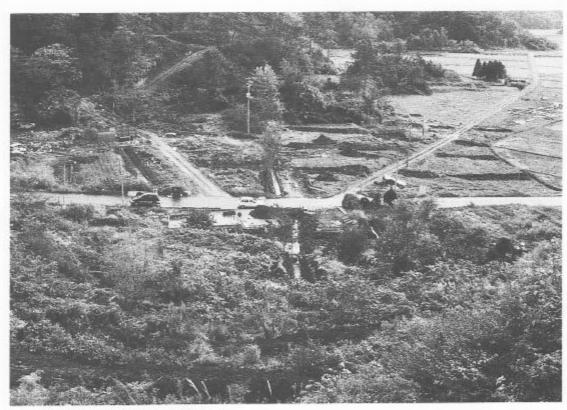
(3)発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺物が集中していることから、平安時代の生活に関わる遺構の存在が推測される。生活面が 粘土層であることから、建物に関わる木材、くらしに使用された木製品等が出土する可能性も ある。



第19図 五百刈沢遺跡 位置図





五百刈沢遺跡 近景 (北西→)



五百刈沢遺跡 No.8 中心杭付近の土層 (南→)

3 一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業

館の上遺跡

1. 遺跡所在地 秋田県山本郡八竜町鵜川字館の上50-2外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年 9 月10日~10月 9 日

3. 範囲確認調査対象面積 38.000 m²

4. 工事区域内遺跡面積 24,000 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

遺跡のある八竜町は、日本海に臨み、南側に八郎潟干拓地を抱え込むように位置している。町のほぼ中央にある八竜町役場の東約1kmの台地上に遺跡は立地している。台地は「成合台地」と呼ばれ、東西約2.5km、南北約7.5kmの広がりをもつ。台地の東側は、大小の沢が入り込み等高線が複雑であるが、西側では浸食作用が軽微で単調である。遺跡は、成合台地の南端に位置しており、東と北から沢が入り込んできている。道路予定地は、沢頭をかすめるように北西から東の方向に緩い弧を描いて通っている。

遺跡の標高は、道路中心杭No.575付近が32mを超え最も高い。それを境にして、西側と東側に向かって標高を減じている。東側のNo.561~571の間に関しては、窪地状になっており、このなかでNo.568付近が最も低く標高31mに満たない。No.560より東側については標高29~30m前後で推移しているが、北側の沢に向かって南から北に傾斜している。

東または北側から入ってきている沢地は、水田又は溜め池として利用されており、水田面との比高差は18~20mである。

(2)現況

山林と畑地が入り組むように分布しており、両者の比率としては畑地が7割程度を占めている。畑地には、耕作されなくなった後、アカシヤ、竹、藤、雑草などが繁茂している。山林は、 用地買収後伐採されているが、やや大きな切り株が残っており、払われた枝も厚く積み重なっている。その後は、畑地だった所と同様に雑木等が繁茂している。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

窪地状になった№568付近の土層の堆積が最も厚く、約1 mである。その地点での層序は、以下のとおりである。

第 I 層 黒褐色土(10YR3/1)シルト。黄褐色土粒子微量混入。表土又は耕作土。層厚は30

cm前後。

第II層 黒褐色土 (10YR3/1) シルト。黄褐色土粒子の粒径が大きくなり、混入量も増加。 層厚は $15\sim20$ cm。

第Ⅲ層 黒色土 (10YR2/1) シルト。良くしまっており、粘性はあまりない。層厚は20~30 cm。

第Ⅳ層 暗褐色土 (10YR3/3) シルト~粘土。地山漸移層。層厚は20cm前後。

第V層 褐色土(10YR4/4)粘土。地山。

②検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、縄文時代竪穴住居跡1軒、縄文時代末から弥生時代にかけての土器埋設 遺構4基、平安時代竪穴住居跡8軒、中世空堀2条とそれに並行する土塁、時期不明の土坑18 基、溝状遺構12~15条、柱穴20数基である。

縄文時代の竪穴住居跡は、道路中心杭No.556に対して南北方向に設定したトレンチの地山面で 検出された。土器埋設遺構は、竪穴住居跡から東へ100m以上離れた調査区東端部で検出され、 土器棺墓と推測される。

平安時代の竪穴住居跡8軒のうち7軒については、調査区の東側に入ってきている沢を囲むように位置している。残り1軒は、道路中心杭No.568を中心とする窪地の中で確認されている。 竪穴住居跡の中で全体のプラン及び規模が確認されたものはこの1軒のみであり、3×3.5mの 長方形プランである。確認された竪穴住居跡の中では、規模の小さい方に属するようである。

中世の空堀と土塁は、調査区東端部に近い道路中心杭No.549付近に確認された。東端部は、北と東から沢が入っているため、台地は北東に細長く伸びる格好になっている。空堀は、沢と沢を結ぶように台地を切っており、北東側の平場は館の郭面と推測される。空堀の推定の規模は、幅4~5mであり、長さは12mをこえるものとみられる。

時期の不明な遺構のうち、土坑は多くが径1m前後のものであり、竪穴住居跡が多く確認されている調査区の東側に検出されている。土坑の中に径約2.5mのやや大型のものが2基確認されたが、これらは他の土坑と異なり、調査区西よりの最も標高の高い地点に位置する。このうち1基を半截して途中まで掘り下げたが、2m近い深さになるものと推測される。溝状遺構は、幅20cmのものから50~70cmのものまで数種類あり、調査区のほぼ全域に認められたが、西側には1条のみ検出された。この溝状遺構1条については、今回の調査期間内に調査を終了させている。埋土中から須恵器甕の破片が出土していることから、平安時代以降の可能性がある。柱

第2節 遺跡範囲確認調査

穴は、多くの土坑と同様に調査区の東側で検出されており、径・深さとも30~40cmの規模である。

出土遺物は、旧石器時代の石器、縄文時代晩期の土器・石器、縄文時代末から弥生時代にかけての土器、土師器、須恵器、青磁、近現代の陶磁器等である。

旧石器時代石器は、ナイフ形石器 1 点が、道路中心杭No.555に対して南北に設定したトレンチの南端の地山上面で出土している。縄文時代晩期の土器は、道路中心杭No.578の北側第III層中から出土している。縄文時代末から弥生時代にかけての土器は、検出遺構のところで述べた土器埋設遺構に使用された壺形の土器である。土師器・須恵器は、平安時代の竪穴住居跡が検出された調査区東側から多く出土している。出土層位は、第II層ないし第III層中である。青磁は、道路中心杭No.565付近の表面採集品であり、小破片のため器形は不明である。

7. 所見

①遺跡の種類

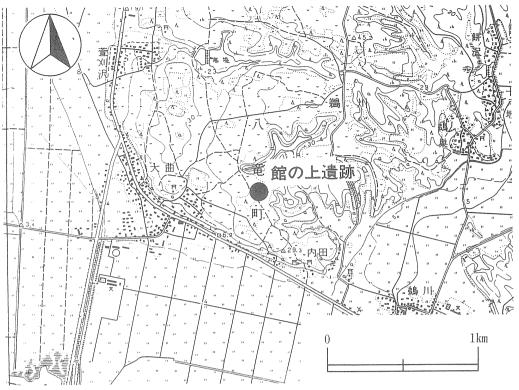
遺跡は、旧石器、縄文~弥生、平安、中世にわたる複合遺跡である。旧石器時代においては石器製作跡の存在が推測され、縄文~弥生時代の集落跡と墓域、平安時代の集落跡、中世の城館跡として機能したものと考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

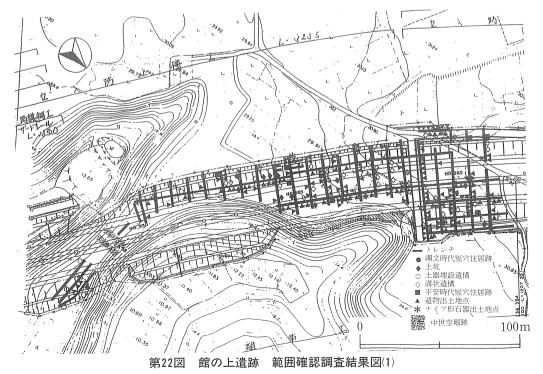
予想される遺跡全体の範囲は、成合台地南端部に南東から北西に向かって切れ込む沢の南西側の台地全域と推測される。工事区域は、遺跡の北東から東側の部分にかかっている。工事区域内の要調査区は、道路中心杭No.547~569の間、No.569~573の北側、さらにNo.575~578の間である。

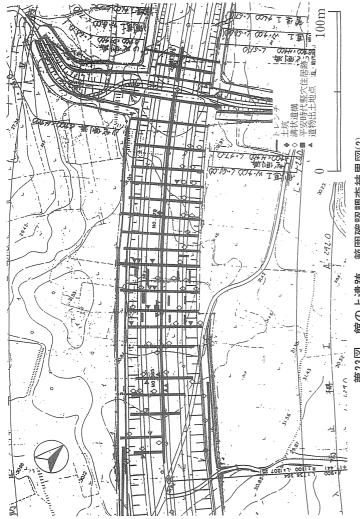
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

旧石器時代では①で述べたように、石器製作跡が発見される可能性があり、石器製作に用いた石核、製品、フレーク等の出土が予想される。縄文~弥生時代では、竪穴住居跡、土坑、土器埋設遺構等の検出が予想され、居住区域と墓域との関係が明らかになるものと思われる。平安時代では、主に竪穴住居跡が検出されるものと思われ、今回時期不明とした溝状遺構、柱穴との関連も予想される。中世城館としては、調査区東端部に郭面が認められたが、この郭面を調査することにより、館の上館の中でこの郭のもつ役割・性格の一端が明らかにできるものと推測される。また、館の上館の北西側の限界または範囲を把握できるものと思われる。

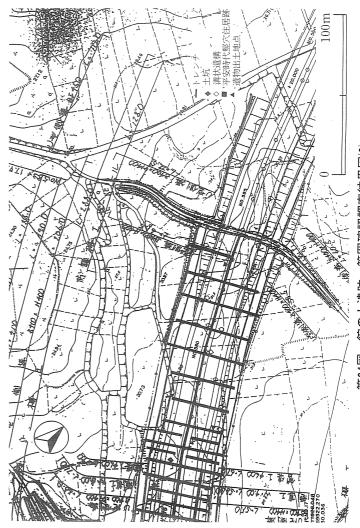


第21図 館の上遺跡 位置図

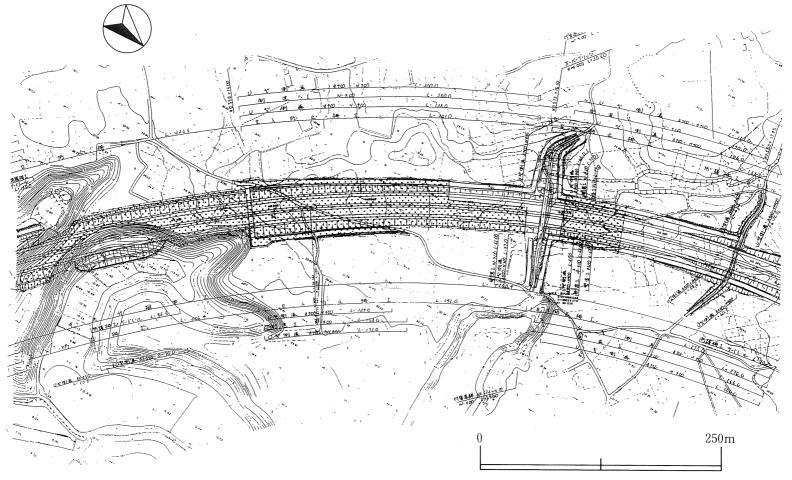




範囲確認調査結果図(2) 館の上遺跡 第23図



範囲確認調査結果図(3) 館の上遺跡 第24図



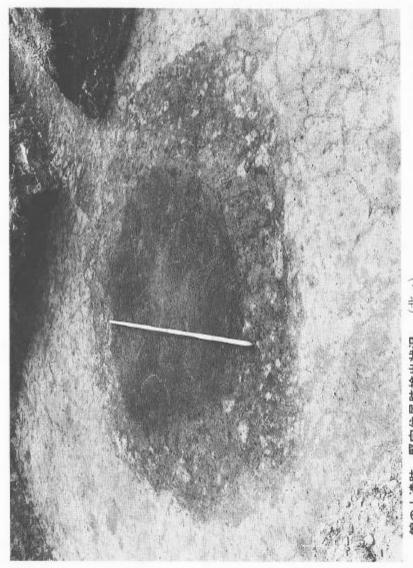
第25図 館の上遺跡 工事区域内遺跡範囲図



館の上遺跡 調査区南東部近景 (北→)



(南東→) 館の上遺跡 土塁確認状況



館の上遺跡 竪穴住居跡検出状況 (北→)



館の上遺跡 海状道構検出状況 (南東→)

4 秋田昭和線地方道改良事業

1. 遺跡所在地 秋田県秋田市手形字大松沢100-55外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年10月26日~11月 2 日

3. 範囲確認調査対象面積 7.000 m²

4. 工事区域内遺跡面積 1,700 m²

5. 遺跡の立地と現況

①遺跡の立地

本調査対象地は、JR奥羽本線秋田駅の北1.9kmに位置する。手形山の西側中腹の緩斜面にあたり、北側は急斜面になって沢に落ち込んでいる。沢は西に向かって開けている。調査区東側で標高60m、西側で標高52mを測る。

②現況

原野および植林された杉林である。杉は全て伐採されているが、大きな切り株がそのままの 状態で残されている。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

STA40杭付近で調査区を西→東方向に横断するNo.5トレンチでの層序は次のとおりである。 第 I 層表土 (層厚10~30cm)

第II層暗褐色~黒褐色土(層厚20~50cm)

第III 層褐色土 (層厚15~20cm) 地山漸移層。

第Ⅳ層黄褐色粘土。地山。

遺物は、第Ⅱ層および第Ⅲ層中から出土している。遺構確認面は、第Ⅳ層上面である。

他の地点でも、基本的に上記の層序と同様であるが、東側の平坦なところでは第II・III層が存在せず、地表下約10cmで地山が確認される。

②検出遺構と遺物

No.4 トレンチの西側で縄文時代晩期の土坑1基、調査区南側の土取り場付近で焼土跡1箇所を確認した。

遺物は、土坑の上面で縄文時代晩期後葉に位置付けられる深鉢形土器ほぼ1個体分、土取り場付近、No.9トレンチで後期土器片、フレークが数点出土した。

7. 所見

①遺跡の種類

縄文時代の遺物散布地と思われる。

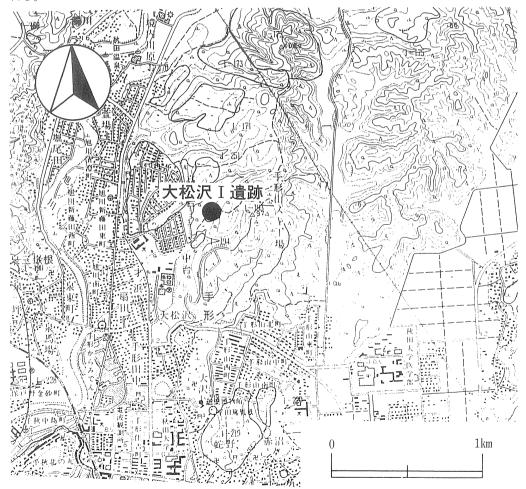
②遺跡の範囲と工事区域

調査は、路線幅杭を基準に東西方向に幅1mのトレンチを入れて行った。このうち、遺跡の 西縁および東縁は、かつての畑作あるいは果樹園造成による削平を受けている。

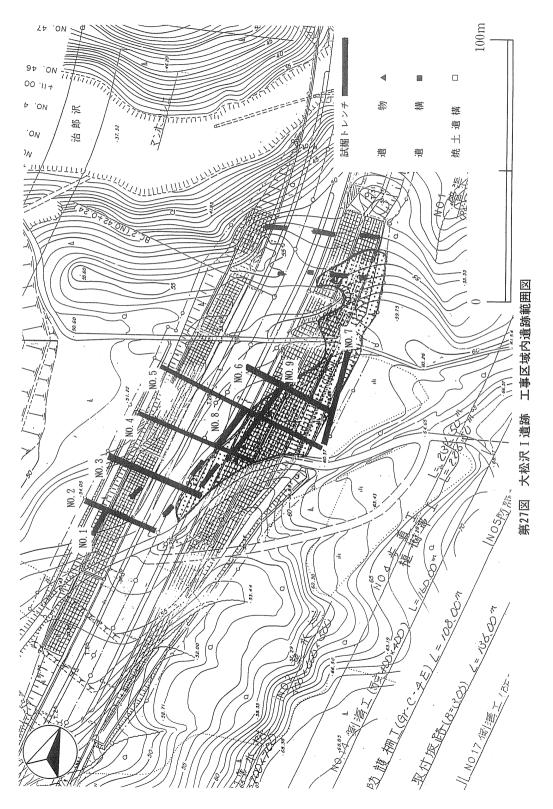
遺構・遺物の検出状況から考慮して、調査区東側の平坦面から緩斜面部分にかけてが遺跡の 範囲と考えられる。工事区域内遺跡範囲は、南東側より台地上に向かう農道より北側の部分で ある。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期から晩期にかけての土器・石器類が出土し、緩斜面に土坑が検出されると思われる。



第26図 大松沢 I 遺跡 位置図





大松沢Ⅰ遺跡 近景 (南→)



大松沢 Ⅰ 遺跡 土坑検出状況 (南東→)

5 曲田地区農免農道整備事業

Deaffet to 冷水山根遺跡

1. 遺跡所在地

秋田県大館市曲田字冷水山根56-1、71-6外

2. 範囲確認調査期間

平成 4 年 4 月13日~4 月15日

3. 範囲確認調査対象面積

 $1.500 \,\mathrm{m}^2$

4. 工事区域内遺跡面積

610 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

冷水山根遺跡は大館市の南部、JR花輪線大滝温泉駅の北西約3.0kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地する。遺跡付近の河岸段丘(第3段丘)は、中山集落の東辺を流れる中山沢とその支谷群により北東から南西方向に開析されている。遺跡は、東側から西側にのびる舌状台地の南西側斜面に位置する。北西側に100m隔てて寒沢II遺跡が所在し、南東側に80m隔てて野沢岱遺跡が所在する。

(2)現況

山林(杉)である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

No. 2 トレンチの層位は、第 I 層表土 (20cm) 黒褐色腐植土、第 II 層大湯浮石層 (13cm)、第 III 層暗褐色土 (14cm)、第 IV 層軟質黒褐色土 (10cm)、第 V 層暗褐色土 (20cm)、第 VI 層黒褐色土 (20cm)、第 VII 層暗褐色土 (13cm)、第 VII 層地山 (シラス) である。

②検出遺構と遺物

縄文時代中期・後期の土器捨て場と、土坑1基・溝状遺構1条を検出した。

7. 所見

①遺跡の種類

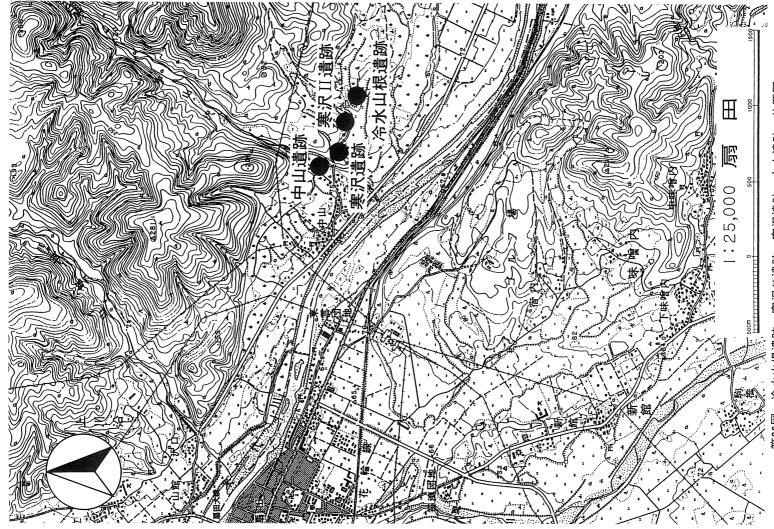
縄文時代中期・後期の土器捨て場と集落跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

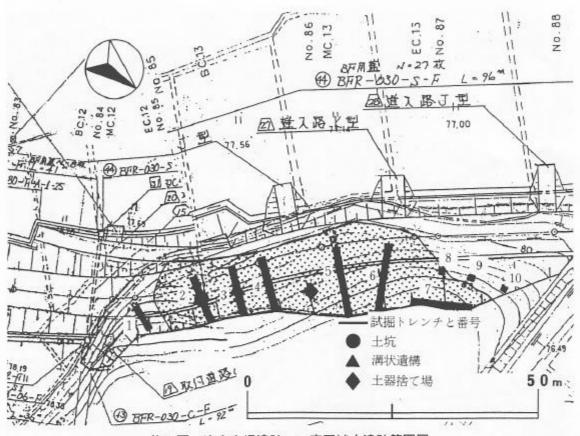
遺跡は台地の上部平坦面と斜面に立地するが、斜面部分が工事区域である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

緩やかな斜面であるので、土坑・溝状遺構などの遺構の検出と、やや量の多い遺物出土が予想される。



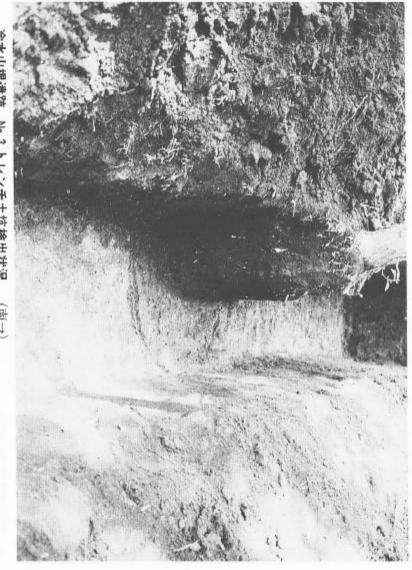
位置図 中山遺跡 寒沢遺跡、 寒沢川遺跡、 冷水山根遺跡、 第28区



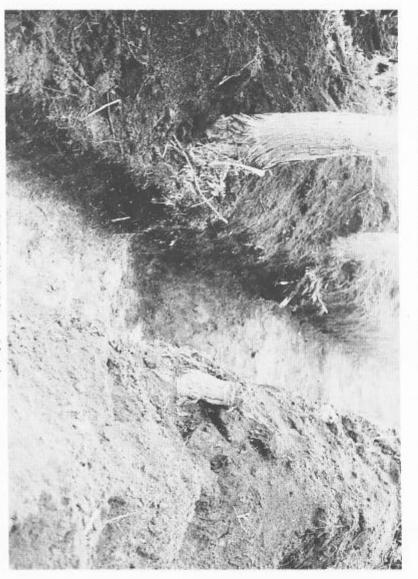
第29図 冷水山根遺跡 工事区域内遺跡範囲図



冷水山根遺跡 近景 (南→)



冷水山根遺跡 No.2トレンチ土坑検出状況 (南→)



冷水山根遺跡 No.3トレンチ溝状遺構検出状況

第2節 遺跡範囲確認調査

きびざわ 寒沢 II 遺跡

1. 遺跡所在地

秋田県大館市曲田字寒沢77-1外

2. 範囲確認調査期間

平成4年4月15日~4月16日

3. 範囲確認調査対象面積

 $1.200\,\mathrm{m}^2$

4. 工事区域内遺跡面積

1.100 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

寒沢II遺跡は大館市の南部、JR花輪線大滝温泉駅の北西約3.0kmにあり、西流する米代川の 右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地する。遺跡付近の河岸段丘(第3段丘)は、 中山集落の東辺を流れる中山沢とその支谷群により北東から南西方向に開析されている。遺跡 は、西側を中山沢、東と南側をその支谷に囲まれた舌状台地の南東側先端部に位置する。

②現況

台地上部は果樹園となっているが、工事区域である斜面は杉林・農道となっている。

6. 範囲確認調査の結果

北西側に50m隔てて寒沢遺跡が所在する。

①層序

斜面を東から西に下る農道の上下で土層堆積が若干異なる。農道の上部のNo.7トレンチでは、第 I 層表土 (20~30cm)、第 II 層大湯浮石層 (5~10cm)、第 III 層暗褐色土 (30cm)、第 IV 層黒褐色土 (20cm)、第 VI 層黒褐色土 (20cm)、第 VI 層黒褐色土 (20cm)、第 VI 層地山粒混入暗褐色土 (30cm)、第 VI 層黒褐色土 (20cm)、第 VI 層地山粒混入暗褐色土 (40cm)、第 VI 層地山粒混入暗褐色土 (40cm)、第 VI 層が地山である。農道下部No.2トレンチでは、礫の混入が多く、第 I 層表土 (50cm) 礫多量混入暗褐色土、第 II 層礫多量混入黒褐色土 (30cm)、第 III 層暗褐色土・砂礫混入黄褐色土 (20~25cm)、第 IV 層炭化物混入暗褐色土 (80cm)、第 V 層にぶい褐色土 (地山)となっている。

上部では第Ⅲ層と第Ⅳ層が遺物包含層となっている。また、第Ⅱ層の大湯浮石層は局部的な 堆積である。下部では、第Ⅳ層が包含層となっている。

②検出遺構と遺物

遺構は確認できなかったが、遺物は、縄文時代中期・後期の土器と石器が出土した。

7. 所見

①遺跡の種類

調査区の斜面は、縄文時代中期・後期の土器捨て場の一部であると考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

台地全体と斜面が遺跡であるが、工事区域は台地の斜面のみである。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

台地斜面の縄文時代中期・後期の土器捨て場では、円筒上層式土器・大木式土器の大量出土が予想される。

8. 参考事項

東側に約20m離れ、調査対象範囲外であるが、台地崩落面に縄文時代の遺物の包含層が見られる。

さびざわ 寒沢遺跡

1. 遺跡所在地 秋田県大館市中山字寒沢83-1外

2. 範囲確認調査期間 平成 4 年 4 月16日~ 4 月17日

3. 範囲確認調査対象面積 600 m²

4. 工事区域内遺跡面積 800 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

寒沢遺跡は大館市の南部、JR花輪線大滝温泉駅の北西約3.0kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地している。遺跡付近は中山集落の東辺を流れる中山沢により北東から南西方向に大きく開析されており、この沢をはさんで東側に寒沢遺跡、西側に中山遺跡が位置している。

遺跡は中山沢の左岸に張り出す舌状台地に立地し、南西部を果樹園に、北東部は台地先端部を切って走る農道により囲まれている。遺跡の範囲には農道も含まれ、標高は75~78mを測る。 ②現況

現況は雑木林・果樹園・原野・農道である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

第 I 層表土・腐植土 $(10\sim20\text{cm})$ 、第 II 層黒褐色土 $(10\sim30\text{cm})$ 、第 III 層暗褐色土 $(0\sim30\text{cm})$ 、第 IV 層砂質ローム (15cm)、第 V 層地山漸移層 $(10\sim30\text{cm})$ 、第 VI 層地山である。第 I 層は暗褐色~黒褐色を呈し、第 IV 層は 3トレンチのみに検出される部分的な間層である。また第 VI 層地山は砂質ローム~シラスであり、地山までの深さは $40\sim100\text{cm}$ である。

遺構確認面は第Ⅲ層~第Ⅳ層、また第Ⅱ層~第Ⅴ層が遺物包含層となっている。

②検出遺構と遺物

第2節 遺跡範囲確認調查

遺構として竪穴住居跡1軒、土坑1基、柱穴様ピット3基を検出した。 遺物は縄文後期の土器・石器が出土した。

7. 所見

①遺跡の種類

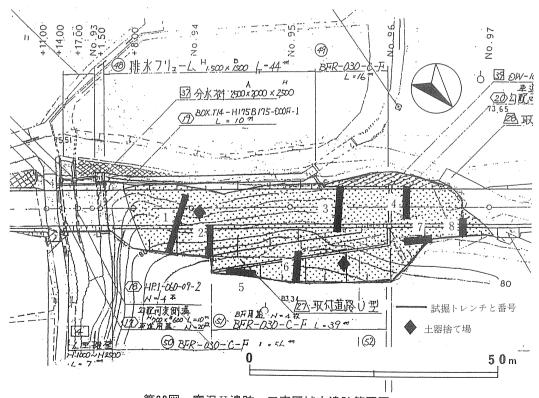
縄文後期の集落跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

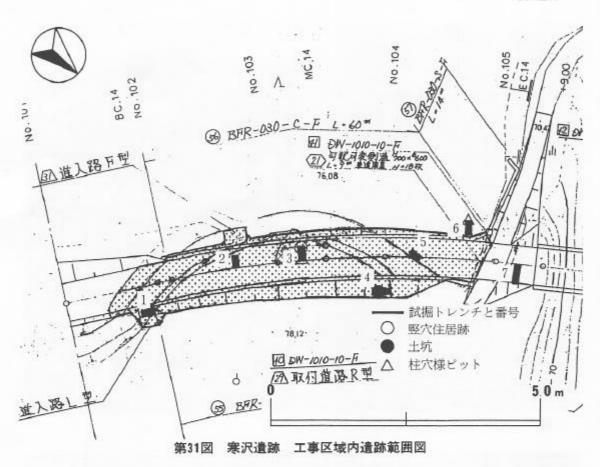
遺跡周囲の果樹園・雑木林を含む台地縁辺部が遺跡の範囲と思われるが、遺跡北東部を通る 農道により竪穴住居跡の床面レベルまで削平を受けている。工事区域内の遺跡範囲は農道の一 部とそれに隣接する原野・雑木林である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文後期の土器・石器が出土し、少数の土坑・住居跡の検出が予想される。



第30図 寒沢∐遺跡 工事区域内遺跡範囲図





寒沢Ⅱ遺跡 近景 (南→)

第2節 遺跡範囲確認調査



寒沢Ⅱ遺跡 No.1トレンチ作業風景 (西→)



寒沢遺跡 作業風景 (南→)

^{なかやま} 中山遺跡

1. 遺跡所在地

秋田県大館市中山字中山31-1外

2. 範囲確認調査期間

平成 4 年 4 月17日~4 月18日

3. 節用確認調查対象面積

800 m²

4 工事区域内遺跡面積

800 m²

5. 遺跡の立地と現況

①立地

中山遺跡は大館市の南部、JR花輪線大滝温泉駅の北西約3.3kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地している。遺跡付近は中山集落の東辺を流れる中山沢により北東から南西方向に大きく開析されており、この沢をはさんで東側に寒沢遺跡、西側に中山遺跡が位置している。

遺跡は中山沢の右岸に張り出す舌状台地に立地し、標高は75~77mを測る。

②現況

現況は果樹園・原野・農道である。

6. 範囲確認調査の結果

①層序

第 I 層表土 $(20\sim40\text{cm})$ 、第 II 層黒褐色礫層 $(0\sim50\text{cm})$ 、第 III 層暗褐色礫層 $(0\sim30\text{cm})$ 、第 IV 層地山である。第 I 層は黒褐色を呈し、第 IV 層地山は砂礫層〜砂質ロームである。また地山までの深さは $35\sim70\text{cm}$ である。

遺構確認面は第Ⅲ層~第Ⅳ層、また第Ⅰ層~第Ⅲ層が遺物包含層となっている。

②検出遺構と遺物

遺構として土坑1基、焼土遺構1基、性格不明ピット1基を検出した。 遺物は縄文後期の土器・石器が出土した。

7. 所見

①遺跡の種類

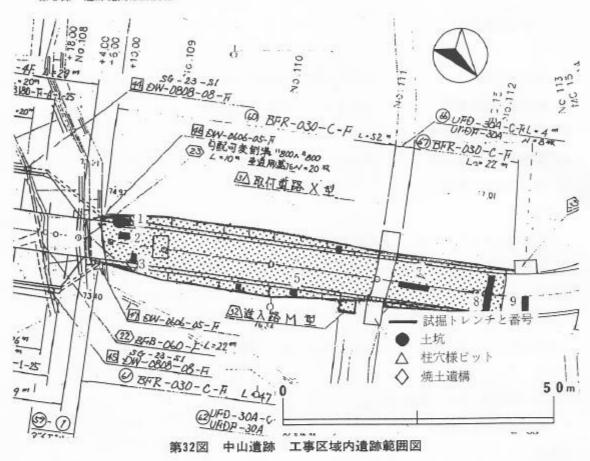
縄文後期の集落跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

遺跡周囲の果樹園を含む台地縁辺部が遺跡の範囲と思われるが、遺跡の中央部を通る農道により削平を受けている。工事区域内の遺跡範囲は農道を除いた果樹園・原野である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文後期の土器・石器が出土し、少数の土坑・住居跡の検出が予想される。





中山遺跡 原野部分の作業風景 (西→)